

別子往還道を訪ねて

足谷川に架かる松山自動車道の下を通り過ぎて県道を北に進むと、生子山山頂に赤い煉瓦の煙突が見えてきます。旧山根製錬所煙突（通称「えんとつ山」）です。子どもどき遠足で登ったり、眺めたりした人も多いかと思えます。平成21年には国の登録有形文化財となり、平成22年には倒壊防止のための耐震補強工事が行われました。同時に煙突周辺も整備され、訪れる人がくつろげる公園となっています。また、えんとつ山を愛する人たちが、案内板の設置、雑木の伐採、新しい登山道の整備などに手を尽くしてくれたこともあり、登山者が増えています。

生子山北側の麓には、大山積神社と別子銅山開坑直後、鎮護の神として大三島（今治市大三島町）の大山祇神社より勧請し、当初は旧別子に建立されました。その後、東平を経て、昭和3年（1928年）に現在地へと奉遷されました。また、別子銅山記念館は、昭和48年（1973年）に28年に亘る歴史に幕を閉じた別子銅山の顕彰施設として、銅山経営の史料を保存展示するために昭和50年（1975年）に住友グループによって開館されました。記念館のすぐ外には、住友鉱山鉄道で使われた蒸気機関車や鉱石積載に使用した貨車などが展示されています。

この北側には山根公園が整備されています。昭和初期、住友社員の福利厚生を目的として、40メートルトラックを持つ本格的な陸上競技場が建造されました。このグラウンドには、観客が競技を観覧するための石積があります。グラウンドや石積は、別子銅山の責任者であった鷺尾勘解治の指揮のもと、住友社員の労働奉仕（作務）によって築造されました。観覧席石積も、平成21年に国の登録有形文化財となりました。

グラウンド北側のテニスコートや遊具広場となっているあたりは、600戸近くもあつた川口新田社宅でした。大変立派な川口新田倶楽部（浴場）の建物もありましたが、多くの人たちにとって懐かしい場所となっています。



川口新田社宅雪景色（昭和32年）

左手には、鷺尾ゆかりの自彊舎や陸上競技場が見られる

広告欄

広告欄